

NEWSLETTER

THE JAPANESE SOCIETY FOR

PARAPSYCHOLOGY

APRIL 1978

No. 4

東京・台北ESP遠距離実験の実施について(※2報)

先に、本計画について、お知らせ及びお願い致しました所、多数の方々から被験者として協力される旨の御返事をいただきました。その後、中華民国超心理学研究会との交渉により実施要領に若干の変更がありましたのでお知らせします。

1. 実施期間 1978年 5月12日(金)~21日(日)
2. 実験時刻

台北送信開始	午前9時	(台北時刻)
東京受信開始	午前10時	(東京時刻)
東京送信開始	午後11時	(東京時刻)
台北受信開始	午前10時	(台北時刻)

実験期間については、先にお知らせした期間では祝日休日を多く含むので遅くしました。又、東京及び台北の送り手の送信開始時刻を別にしたのは、実験条件を簡明にしたという中国側の希望によるものです。

本実験は遠距離実験ですが、targetの提示時間と被験者のcallの時間とを一致させ1分1trialで進行する所に大きな特徴があると思います。この方法を嘗てDr. PrattがMr. Pearceを被験者としてDuke大で構内で距離(約200m)を介して行った時使いましたが、今回のように遠距離(2000km)の場合に使うのは初めてです。targetが遠くにありまゝの実感が著くなりますが、正確に時間を一致させる様お願い致します。

近々、実施要領と「記録用紙」をお送り致します。

中華民国超心理学研究会 について

今回、ESP遠距離実験を行う=とに成りました中華民国超心理学研究会について概要を紹介します。

1977年3月6日台北市華僑聯合迎賓館において成立大会を挙行、政府公認の超心理学に関する同国唯一の研究団体が会員数は、現在298名。

- 役員 常務理事 汪少倫 (立法委員)
黎聖倫 (政戦学校教授)
黄大俊 (国立中興大学教授)

理事 12名

超心理学の研究及びその応用を目的とし、最近、心靈科学研究会、電カ降霊研究会、精神分析会

組、安定機能研究会、ESP実験研究会、心電作較研究会などの研究班を作り組織的研究を企画している。

機関紙として「超心理学」というタブロイド版4頁の新聞を隔月に出版している。

今回の遠距離実験の中国側の責任者は夏鶴氏が研究会の副総幹事です。

※11回大会準備の経過

会長長嶋先生を中心とし、野間口、杉谷、小松氏等が、会場の交渉、特別講演、シンポジウムの審議の選定交渉を下さってあります。

多数の「研究発表」を期待しております。

会務報告

※123回 月刊研究会

1978年4月9日(日) 10:00~16:00 学士会館本館において開催 出席者8名 ※11回大会の実施要領の大綱決定、金沢、松田氏より Handbookの紹介及び討論も行われました。

お知らせ

※124回 月刊研究会

1978年5月28日(日) 午前10時 午後4時
学士会館本館 東京・千代田・錦町3-28,
03-292-5931

文献紹介

生物を被験体としたEpsiテストについて
杉谷道男

Handbook 輪読

Part IX Parapsychological Models and Theories
Rex Stanford: Conceptual Framework of
Contemporary Psi Research 金沢元基

NEWSLETTER 1978年4月9日発行 ©
編集 発行 日本超心理学会

文献紹介 - 輪読会報告 2 -

HANDBOOK OF PARAPSYCHOLOGY 1977

PART IV PARAPSYCHOLOGY AND PHYSICAL SYSTEMS

1. Historical Background By J. Fraser Nicol pp. 305-323

紹介者 松田 年

超常的物理想象は古代から報告されているが、その
質と存在を疑わしいものであった。

例えば、旧約聖書出エジプト記14章にある紅
海の水をモーセが二つに分けてイスラエル人を安全に
逃がした等である。又、マホメドの襪から月が小さ
く入って入りシヤツから抜け出た話がある。

つぎの千年間には証拠の水準は若干進歩した。John
Aubrey (1890) は悪魔にとりつかれた人が空中を移
動する語を証人(1671)を挙げた報告につ
いて述べた。

Daniel Defoe (1840) はにせの石ルターガイストを
暴露した。

19世紀には近代に電主義の抬頭により実験的手法
が用いられた。

物理的心霊現象の現代的研究は1848年2-3月
でJ. D. Foxの2人の娘について開始された。霊堂の打
叩音があり、質問するとと木に返答した。Sir W.
Crooks, E. M. Sidgwick, Lord Rayleigh が調査
が解明された。1888年2人は一旦ノチンだと
告白したが、1ヶ月後その1人は前言を撤回した。

Prof. Robert Hare (1981-1858) は磁針を念力測定
器をつくり学会に手紙を出したが否認された。

L. Agassiz, B. Peirceらは1857年に物理力を示す
電媒の研究をしたが不純であると宣告された。

H. Seybertの遺言をつくられたSeybert委員会の
研究では「殆んど全ての物理的力を示す電媒はイ24
キが軽微しい」ことを発見した(1887)。

多くの降霊術の報告は、無罪な冒険のようにみえ
るが歴史的には真面目な心霊研究者が昔は経験から
ノチン師にあざむかれまいと方法論を強固にした点
で評価される。

Gambier Bolton (1900) や W. McDougall の電
媒 Craddock についての報告; H. M. Hardy の虫
型、A. Guppy の物体移動、H. P. Blavatsky の
通霊、de Guldenstubbé (1820-1877) の心電
筆記、H. Slade; W. Eglinton (1857-1933); S. John

Davey (ca. 1865-1890) 等の物理的心霊現象があ
ったが、圧倒的多数の電媒による物理的現象は確かな
証拠を示していない。

しかし、若干は捨てられたい例がある。例えば D.
D. Home (1833-1886) の打叩音、家具移動、秤への
荷重、指が鍵盤に触る前にXロデーをせしたアコー
ド; E. Palladino (1854-1918) のテ-ブル浮上
検電器の放電、天秤への力、ギタ-の音; Miss Gol
dghen のテ-ブル浮上(1920); A. Rasmussen
(1898) のテ-ブル移動や椅子; Stella Cranshaw
(1923) のシヤボン玉とかうす皿で覆われた接触
板と器への反応等である。

このような歴史的背景を通過すれば、物理的心霊現
象は超常分野において最も不確定な部分であると要約
される。テ-ブルや他の形の超常的認知を納得し
ていく多くの研究者も物理現象の存在には疑問をい
っている。その理由は物理的現象を満足するように説
くことが困難であり、数百年間証人者は数えきれな
いノチンで汚染されて来た。加うるに人間の証言
の質について疑われつけられた。—"疑った観考
と思"違"は Davey と Hodgson 後には Besterman
により実験的に立証された。物質化した幽霊、物体貫
通、心電写真、その他劇的事件に關する証拠主義に
対し懐疑主義は以前よりより根強い一歩した。
超常的現象の存在の現状である。

しかし、人間の誤謬を全くと認めた場合でも、Home
Palladino, Shneider, Stella C. などの若干名の
歴史をみると、念力、打叩音、その他報告された事件
に關する疑問に對して、自身の真正さを、従ってその
現象の真実性を立証するような驚異的事件が成就され
るよう思われたいのである。

著者

J. Fraser Nicol: Corresponding Member, former
member of Council, Society for Psychical
Research, London; member, American
Statistical Association